

## スウェーデンの認知症高齢者介護における家族介護者とその支援

### —家族介護者へのインタビューを中心に—

○ 大阪大学大学院 久保 恵理子 (会員番号 007289)

キーワード3つ: スウェーデン 認知症高齢者 家族介護者

#### 1. 研究目的

高齢者が認知症になることは、本人だけでなく、共に生活を送る家族にも大きな影響を与える。これまでの認知症高齢者介護をめぐる家族介護者の介護負担研究は、ストレスモデルや直接的な介護の負担に注目したものが多かった。しかし近年の研究では、介護行為そのものが持つ負担だけでなく、家族介護者が持つ個別性や、ストレスや負担だけに留まらない家族介護の肯定的・双面的側面も同時に分析するような認識の多様性への着目などの必要性も指摘されている(天田 2007, 井口 2007)。

一方、本研究の調査地であるスウェーデンは、個のニーズを中心とした普遍的な社会サービスにより、高齢者が要介護状態となっても、地域で自立した生活を送ることを可能にしてきた。しかしながら 90 年代以降、要介護高齢者と暮らす家族介護者をどのように支援できるかが、高齢者介護分野における大きな課題となっている。他の社会と比較して、高齢者に対する公的介護サービスの整備が進んでいるとされるスウェーデン社会において、家族介護者が必要とする支援とは、どのようなものなのだろうか。

本研究の目的は、スウェーデンの認知症高齢者の家族介護者の現状を、家族介護者の経験という視点から明らかにすることである。その上で、スウェーデンで行われている家族介護者支援が、家族介護者の経験にどのように関与する可能性があるかについて考察を加える。

#### 2. 研究の視点および方法

本研究は、認知症高齢者介護における家族介護者の負担を、家族介護者の経験という視点から捉える。スウェーデンの認知症高齢者介護において、高齢者の認知症やその介護が家族介護者にとってどのように経験されたかを明らかにするために、3名の家族介護者に対して、半構造化面接を用いたインタビュー調査を行った。

インタビュー調査は、2009年4月～6月にかけてスウェーデン南部にある中核都市ベクショー市で行った。インタビューの選定は、調査地の市職員(家族相談員)に紹介を依頼する縁故法で行った。インタビューでは、家族介護者の話を引き出すためにいくつかの質問項目を用意した上で、インタビューには、介護以前からの家族関係も含めて、家族介護者自身の経験談として、思っていたことや考えていたことを話すよう依頼した。

### 3. 倫理的配慮

インタビューには、研究の趣旨、結果の利用方法、プライバシーの保護、録音の許可について説明し、調査の参加への同意を得た。また、調査は英語で行ったが、調査者とインタビューの理解の齟齬を避けるため、公用語であるスウェーデン語で書かれたインタビューガイド及び介護サービスに関する資料を使用した。

### 4. 研究結果

3名のインタビューによって、共に生活を送る高齢者に認知症症状が現れ始める以前から現在までの経験談が話された。その結果、先行研究(Torntore ほか 2004)が指摘しているように、高齢者の認知症やその介護の受け止め方は家族介護者によって様々であり、それまでの関係性によって負担と感ずる内容も異なることが示唆された。また、高齢者から目が離せない状況が続くことで、家族介護者は常に高齢者を「気遣う」必要があり、それらが大きな負担として経験されていることも明らかとなった。それらは「無限定性」(井口 2007)を持った介護経験であり、その支援には、それぞれの家族関係の歴史も含めたケースの個別性に注目する必要性が示された。

一方、市から提供される介護サービスの利用は、そのサービスメニューの多様さだけでなく、家族がサービスを必要と感ずる以前からのアプローチや、それぞれの時点で高齢者や家族介護者の状況をよく知る人物(市職員・介護サービススタッフ)が行う柔軟なサービス調整によって、概して良く機能している様子が話された。しかしながら同時に、介護サービスの利用については、「施設へ入居したことで、私(家族介護者)自身の生活はとても楽になりました。でも、できれば自分でできるだけ長く介護をしたかったです。」「いつも2人で暮らしていたこの家の中で、誰かが足りない。それはどうしようもない。」といった心情も話された。このように、家族の経験という視点から見ると、介護サービスの利用は家族介護者にとって喪失感や罪悪感を伴うものであることも明らかとなった。インタビュー結果から、スウェーデンで行われているそのような家族介護者への支援は、ケースの個別性を含めた家族介護者の経験を理解し、その喪失感や罪悪感を軽減することを目指した支援であることが示唆された。

#### 参考文献

- ・天田城介 <老い衰えゆくこと>の社会学[普及版] 多賀出版 2007 p.256
- ・井口高志 認知症家族介護を生きる 新しい認知症ケア時代の臨床社会学 東心堂 2007 p.148
- ・Torntore, J. B. & Grant, L. A. Family caregiver satisfaction with the nursing home after placement of relative with dementia. *Journal of Gerontology: SOCIAL SCIENCES* 59(2) 2004 pp.80-88